

# 共生

奈良県生協連

2016年1月

NO.99



雪の中のサザンカ

## もくじ

新年のご挨拶 瀧川潔奈良県生協連会長・・・1  
新年のご挨拶 荒井正吾奈良県知事・・・2  
ピースアクション in なら・・・3・4  
2015年度第2回 生協・行政協議会・・・5  
食の安全のページ・・・6

おじゃましました～奈良教育大生協の巻・・・7  
環境のページ・・・8  
奥大和ゆうゆう祭で「健康チャレンジ」他・・・9  
3.11を忘れない・・・10



## 新年のごあいさつ

### 新しい年の生協活動は 「見よう、言おう、聞こう」の「前向き猿」で

奈良県生活協同組合連合会 会長 瀧川 潔



奈良県生協連の会員及び組合員のみなさん、新年おめでとうございます。

昨年は奈良県生協連の様々な活動に対し、大きなご支援、ご協力をいただきまして誠にありがとうございました。心から感謝申し上げます。

昨年は終戦・被爆70周年にあたり、「戦争」や「核兵器」の恐ろしさを再度心に刻み、内外の状況からみて、二度とこれらの被害をこうむることのないように、各自が心して何らかの行動をしていくことが大切だということを自覚した年でした。

政治的には、憲法に違反する安保法制の採決強行、TPPの受け入れなど、今後の日本のくらしに大きな影響を及ぼす問題であり、国民の意見を二分する問題が、政府によって一方的に進められました。また経済的には、大企業を中心に利益を向上させたのとは裏腹に、働く人の賃金格差は進み、物価や公共料金の上昇に追いつかない収入、高齢化の進行、福祉の後退など消費者・市民のくらしは厳しさが増した年でした。

このような中でも県生協連と各生協では、くらしの向上とそのための協同の様々な活動が進められました。NP T会議への代表派遣と報告集会、生協大会での平和と反核の活動、災害支援と防災・減災、再生可能エネルギー問題、食の安全懇談会、「なら消費者ねっと」の法人化、「県生活支援サービス・活動連絡会」設立など、活動は着実に

前進しています。また、会員の事業においても組合員の利用は全体として前進し、厳しいながらも組合員、役職員の奮闘が成果を上げています。

今年は、日本の政治的、経済的状況が昨年の流れを踏襲しつつ一層鮮明になり、電力販売自由化等エネルギー改革の開始や来年度の消費税増税を含めて、黙っていれば利益は大企業に向かい、消費者・市民のくらしはさらに厳しくなる傾向が考えられます。奈良県生協連としては、これらの状況に対して、会員、組合員とともに生協の活動を、昨年にもまして一層進展させる必要があると考えております。

奈良県生協連に集う会員役職員、組合員のみなさん、奈良県の組合員のくらしの向上のために、組合員の参加を土台にして、さらにいっそう奮闘いたしましょう。今年のエトは猿。「見ざる、言わざる、聞かざる」の「後ろ向き猿」ではなく、「見よう、言おう、聞こう」の「前向き猿」で、積極的に活動と事業を進めて行くことが大切です。食とくらしの安心・安全を基礎に生協の利用を広げ、福祉・共済・医療の活動、消費税・税制やエネルギー改革を含む消費者問題、反核平和、災害支援と防災、などなどの活動を、奈良県のすみずみに、今年も積極的にとともに進めてまいりましょう。



# 平成二十八年 新年ごあいさつ

奈良県知事 荒井 正吾



奈良県生活協同組合連合会の会員生協及び関係者の皆さま、明けましておめでとうございます。

平成28年の年頭にあたり、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年4月の知事選挙におきまして、2期8年の県政運営に多くの県民の皆さまの評価をいただき、引き続き県政推進の重責を担わせていただくことになりました。本年も、「住んでよし」「働いてよし」「訪れてよし」の奈良県の実現に向け、県と市町村との連携・協働による県勢発展のための「奈良モデル」を推進し、本県独自の地方創生の実現に取り組んでまいりますので、引き続きお力添えのほどよろしくお願い申し上げます。

## 「住んでよし」の奈良県を目指して

昨年、貴連合会及び貴連合会の会員生協が参画し、発足された「奈良県生活支援サービス・活動連絡会」におきまして、助け合い・支え合いの理念に基づき、見守り活動や買い物支援を始めとする生活支援活動を行っていただくなど、県民のくらしの向上につながる取組を積極的に進めていただいていることに感謝申し上げます。

県におきましても、全ての県民の皆さまが、健やかで安心して暮らせるまちづくりを進めてまいります。

健康や福祉の分野では、まほろば健康パークや健康ステーションが大変好評ですので、これらを拠点として健康寿命を着実に延ばすことや、医療・介護・生活支援サービス等を一体的に提供する地域包括ケアシステムの構築などに取り組めます。

## 「働いてよし」の奈良県を創る

貴連合会の会員生協において、日頃から男

女共同参画に関する取組や障害者雇用の促進に関する取組に努めていただいているところ

ですが、県におきましても、奈良県から若者が流出しないよう、また、女性や高齢者が働く場を近くに多く見つけられるよう、「しごとの場づくり」に全力で取組を進めてまいります。

そのためには、消費、生産、投資が県内で好循環することが重要です。本年も3つのリーディング産業と6つのチャレンジ産業分野の「産業興し」に積極的に取り組みます。

## 「訪れてよし」の奈良県へ

県南部東部地域の特産品の生産・販売の促進と魅力の発掘・発信のために開催いたしました「奥大和ゆうゆう祭」におきまして、貴連合会及び貴連合会の会員生協の皆さまには、昨年に引き続き、多大なご協力、ご支援をいただきましたことに心からお礼申し上げます。

奈良の豊かな歴史・文化・自然は、世界的に見てもとてもユニークなものです。奈良の資源を活用して訪問リピーターの増加を図ります。

そのための新たな試みの一つとして1月末に平城宮跡で「大立山まつり」を初めて開催します。首都圏や海外への観光プロモーションなどにも積極的に取り組み、たくさんの観光客で賑わう奈良をつくっていきます。

これからも、県民の皆さまのご意見やご提案にしっかり耳を傾け、皆さまとともに良い奈良の未来を築いてまいりたいと考えておりますので、重ねて皆さまの一層のお力添えを心からお願い申し上げます。

最後に、奈良県生活協同組合連合会及び各消費生活協同組合のますますのご発展を祈念申し上げて、新年のご挨拶といたします。

# 終戦・被爆70年 ピースアクションinなら ～核兵器のない世界をめざして私たちができること～ 第26回生協大会 2015年11月7日(土) 奈良県婦人会館

11月7日、終戦・被爆70年を学び核兵器のない平和な世界への願いを多くの人とともに共有するついで「ピースアクションinなら2015」を開催しました。会場には県内在住の被爆者をはじめ戦争体験世代から大学生まで幅広い年代の方70人が参加しました。

広島市の被爆当時の姿を綴った記録映画「ヒロシマ・母たちの祈り」上映の後、日本原水爆被害者団体協議会の田中熙巳事務局長に「原爆被害の実相と70年間の被爆者の想いと行動」と題してご講演いただきました。

組合員、学生や被爆者を交えたトークコーナーでは未来に向けた平和の想いを語り合いました。初めて被爆の実相や歴史に触れる参加者も多く、被爆70年の節目に充実した学びの場となりました。



70年の被団協の  
運動の歴史を語る  
田中熙巳事務局長

## プログラム

- ◆開会挨拶：瀧川潔 奈良県生協連会長
- ◆記録映像上映：「ヒロシマ・母たちの祈り」
- ◆講演：「原爆被害の実相と70年間の被爆者の想いと行動」  
講師：田中熙巳氏（日本原水爆被害者団体協議会事務局長）
- ◆トークコーナー「戦後・被爆70年 未来に向けて」組合員、学生や被爆者の方を交えて  
進行役：村上泰三氏（奈良教育大学4回生、2015年NPT再検討会議代表派遣）
- ◆閉会まとめ：辻由子 奈良県生協連専務理事

### 田中熙巳氏の講演

## 「原爆被害の実相と70年間の被爆者の想いと行動」 =抜粋=

#### ○ご自身の被爆体験と今日まで

中学1年のとき長崎市の爆心地3.2キロで被爆し奇跡的に助かったが、一度に身内5人をなくし、野で茶毘に付しました。爆心地帯の惨状に呆然。放射線による健康被害は出なかったが極貧の生活を強いられ働きながら高校・大学時代を過ごした後、研究と教育に携わり1970年頃から被爆者運動に参加しました。

#### ○日本被団協の歩みと被爆者対策について

- ・戦時災害法は1946年9月に効力を停止し、原爆投下後10年間、広島長崎の被爆者は見捨てられたままでした。
- ・1954年、第五福竜丸の被爆を機に原水爆禁止運動がひろがり、1955年に第1回原水爆禁止世界大会。1956年日本被団協結成。被爆者救済と原水爆禁止は車の両輪で進みました。
- ・12年目にしてようやく医療対策が始まりましたが、はじめは認定患者だけが対象でした。被団協による運動の結果、1974年にすべての被爆者に対策が適用されるようになりました。
- ・「被爆者対策基本問題懇」で戦争被害の「受忍」を強いる答申が出されるなど、厳しい戦いが続きましたが、全国行脚と国会請願デモ、国民署名などの行動で対策の改善を求め、1994年に「医療法」と「特別措置法」を併合した原爆被害者援護法が制定されました。
- ・原爆症認定集団訴訟の運動をすすめてきましたが、2009年政府との確認書を交わしようやく終結。

#### ○核兵器廃絶を求める国際運動

- ・1975、1976年国連に核兵器廃絶を要請。1977年に被爆者問題国際シンポジウムではローマ法王が「人類はすべてヒバクシャ」とスピーチ。分裂していた原水禁運動の統一へ動きました。
- ・国連軍縮特別総会（SSDI、SSDII、SSDIII）に参加。1996年国際司法裁判所勧告「核兵器の使用と威嚇は国際法違反」には300万人署名、生協も参加しました。
- ・NPT再検討会議はじめ、国際的な場に被爆者の声を届ける活動を続けています。

# トークコーナー 「戦後・被爆70年 未来にむけて」

参加者の中から年代の違う4人の方がそれぞれの平和に対する思いや意見を発言しました。2015年NPT再検討会議の生協代表団に参加した村上泰三さんの進行ですすめられました。



左から 小比賀さん・松本さん・平田さん・山下さん

## 平田海さん (奈良教育大学)

映像にとっても衝撃を受けました。教育実習のとき「平和」をテーマに子どもたちが描いた絵は、家族がいる普通のおだやかな日常風景だったのが印象に残っています。こんな日常のあたりまえのことがあたりまえでなくなるのが戦争なので戦争は絶対にあってはならない。次の世代に伝えていきたい。

## 進行役の村上泰三さん

知ること、そしてそれが何を引き起こすのか、想像力をもつことが大事だと思った。そしていま、ほくたち若い世代への期待が大きくなっているが、それと同じくらいここにいるすべての世代がアクションを起こしていくことが何より大切だと感じています。

## 松本有紀江さん (広島で被爆)

女学生の時、学徒動員先の陸軍施設で被爆、爆心地から2キロ半の専売公社のビルに飛び込み命が助かったが、あたりは死体の山だった。救護活動をしていると、小さな女の子が母親の後を追って亡くなった。その子が最期に歌った歌は「勝って来るぞと勇ましく」だった。差別も受けながら戦後を生きましたが、あのような地獄はもう見たくないとの思いで30年以上語り部を続けています。

## 小比賀博美さん(ならコープ、2015NPT代表団参加)

ニューヨークで出会った9歳の男の子、ルイ君。原爆に強い関心を持って熱心に話を聴いてくれた。その後学校でその発表をしたら、残酷すぎると先生から8分で話を止められた。一人の母親として、市民として伝え、聞く活動を続けていきたい。オリジナル絵本で平和のことを小さな子どもたちと一緒に考え伝えていきたいと思っています。

## 山下桃果さん (奈良県立大学)

フィルムを撮った米軍の人は、この世に生まれ愛されかけがえのない人生を送ってきた広島の人たちの悲惨な状況を、まるで実験物のように、単なるモノとして映像に納めた。そんな気持ちにさせてしまう戦争が怖い、と胸がいつぱいになった。一人でも多くの人が戦争の恐ろしさが感じられるように、伝えていかなければと強く思います。

## 講師の田中さんのコメント

現在の日本の状況には、危うさを感じています。今は経済的に豊かになり、経済性の追求が優先されています。しかし、お互いを思いやり仲良くすることなど、物質的豊かさよりも大事な価値観があるのです。日本のこれからをつくっていくのは「人々の協同」であると思っています。

## メッセージと祝電が寄せられました

ありがとうございました！

- 被爆地首長から 広島市・長崎市
- 県内自治体首長から 奈良市・生駒市・橿原市・葛城市・山添村 斑鳩町・御杖村・上牧町・王寺町・河合町

## 参加者の声 (アンケートより)

- 今回のように広島や長崎のお話をきちんと聞くのは恐らくはじめてなので想像以上の衝撃で驚くことばかりでした。(20代)
- 私たちは学びつつ、次世代へ戦争や核兵器の非人間性、おそろしさを次の世代へ伝えて行く作業を1人でも多くの人が自分のできる事で続けていくべきだと思います。(60代)
- 核の反人道性、戦争の非人道性を改めて認識しました。戦争は現在も世界でおこっていることに關心を持つことが重要と思います。(50代)



展示コーナー

## 記録映画

### 「ヒロシマ・母たちの祈り」

広島市の被爆当時の姿を撮影したフィルムをもとに、母親の視点から核兵器の廃絶と平和の尊さを訴えています。米軍が撮影した原爆投下直後の映像も含め、当時の被害の実相を伝える貴重なフィルムです。企画：広島市、(公財) 広島平和文化センター。

## 講師田中さんと被爆者が懇談

開会前に、講師の日本被団協田中事務局長と、来場した奈良県在住の3人の被爆者とが懇談しました。瀧川奈良県生協連会長も交え、奈良県内の被爆者の状況やお互いのつながりなどについて情報交換が行われました。

11月12日(木) 奈良商工会議所

**2015年度 第2回 生協・行政協議会****=奈良県消費・生活安全課と意見交換しました=**

11月12日、本年度第2回目の生協・行政協議会を開催し、奈良県消費・生活安全課から姫野隆昭課長はじめ4名のご出席があり、奈良県生協連の理事・監事と意見交換を行いました。

奈良県生協連では10月に2016年度の奈良県行政への要望書を提出しており、県からはそれぞれの項目に対するていねいな回答をいただきました。

今年4月に食品表示法施行と機能性表示食品制度のスタートがあり、私たちの関心は消費者が新制度を理解できるようになることや、制度の適切な運用と事業者の違反が横行しないかという不安にありました。この点に関し県からは、適宜リスクコミュニケーションを実施することや、表示違反の監視を強める、などの説明がありました。意見交換では健康食品に頼らない食生活をすすめることも大切との意見も出ました。

消費者問題に関しては、生協連が支援するNPO法人なら消費者ねっとの活動を通じた県行政との連携が話題になりました。大学生協の活動でも今後消費者問題をテーマに取り入れていけると、若い人たちへの消費者教育がすすむことになるので期待したい、などの意見が出ました。このほか、福祉の分野や防災、環境施策についての要望にもそれぞれ対応施策の説明をいただくことができました。

**奈良県2016年度行政への要望書 要約****1. 食の安全安心の施策について**

- 食品表示法施行にともなう消費者への情報発信とリスクコミュニケーションをお願いします。
- 機能性表示食品制度のスタートにより、健康食品市場の競争激化の中で表示違反が起きないよう監視を強めてください。
- 奈良県版HACCPの意義やメリットを消費者にも伝えてください。

**2. 安心してらせる地域づくりについて**

- 住民の自主的な活動をつなぎあう「奈良県生活支援サービス・活動連絡会」が発足しました。活動への協力をお願いします。
- どこに住んでいても安心して同質のサービスが受けられるように、各市町村ごとの地域支援事業がすすむよう、県からのサポートをお願いします。
- 高齢化や孤立化に配慮した災害時対応ができるようにしてください。

**3. 消費者行政について**

- 消費者教育推進の担い手である消費者団体を積極的に支援・育成してください。
- 悪質商法による被害を未然防止するためには地域の見守りが重要。なら消費者ねっとも実態調査などを通して啓発を考えているので連携と協力をお願いします。

**4. 環境・エネルギーの施策について**

- 温室効果ガス削減には電気だけでなく熱利用やコージェネレーションの推進なども重要になっています。これらに目を向けた施策も検討してください。
- 奈良県南部地域の豊かな自然を大切にしながら人のきずなを結び、暮らしや産業、エネルギーを地域で創り循環させる「地域共生社会」をめざした取り組みをしています。水資源、森林資源を守る事業、災害支援活動や自然エネルギーを生み出す住民の活動は相互につながりそして環境政策にも深くかかわっています。新環境総合計画には、これらの視点（森林整備、防災、エネルギー、住民参加など）を盛り込んで奈良県らしい総合的な計画を策定してください。



## 2015年度 食の安全懇談会を開催



11月11日 奈良商工会議所中ホールにて食の安全懇談会を開催し、会員生協役職員22名が参加しました。

食品表示法が2013年6月28日に公布され、2015年の4月1日から施行されました。この食品表示法の制定により、これまでばらばらであった「食品衛生法」「JAS法」「健康増進法」に基づく表示に関する規定が統合され、目的規定含め食品の表示に関する包括的かつ一元的な制度が創設されることとなりました。また、機能性表示食品制度もスタートし、機能性表示食品の届け出が受け付けられ、すでに機能性表示食品が販売されています。

奈良県生協連の瀧川潔会長、奈良県消費・生活安全課の姫野隆昭課長の挨拶のあと、2015年8月まで内閣府消費者委員会・食品表示部会委員であった石川直基弁護士より、「食品表示法により、食品表示はどうか変わったか」というテーマでお話していただきました。食品表示法制定に至った背景や従来の法令との変更点、まだ取り残されている問題など、私たち消費者が学ぶ機会となりました。また、奈良県における食品表示に関する取り組みについて、奈良県消費・生活安全課の中谷英雄主幹から報告をしていただきました。この法制度の変更に対応するための現場での苦労や法的な管轄の課題などもお話していただきました。

審議に参加された弁護士としての視点からの最新の情報提供があり、新しい法への理解が深まりました。食品表示が変わっていない点（加工食品の原料原産地表示、遺伝子組み換え食品表示、添加物の表示、外食・中食に対する食品表示など）については、今後も消費者として注視していく必要があります。



元内閣府消費者委員会 食品表示部会委員・弁護士 石川直基氏の講演



奈良県消費・生活安全課  
中谷英雄主幹の報告



質疑応答および意見交換

## TPP協定で食の安全はどうなる くらしと協同の研究会『公開講座』

11月21日(土) 京都せいきょう会館

食料の海外依存の加速によって、食品添加物、栄養成長剤、残留農薬、ポストハーベスト、BSE牛肉、遺伝子組み換え食品の表示などをめぐっての食の安全性への不安感から、地産地消や国産の食品を求める消費者の動きがある一方で、「輸入品が安くなる」とTPP協定の大筋合意したことを歓迎する消費者の意見も出されています。

くらしと協同研究所研究員で滋賀県立大学名誉教授の小池恒男氏より「TPP協定大筋合意の局面をどうみる」という問題提起があり、津市立三重短期大学の石原洋介教授より「TPP協定で食の安全はどうなる」という基調講演がありました。TPP協定ができるまでの背景や経過、合意内容などの説明があり、「貿易の自由よりも予防原則の適応を認め、人命・健康を第一に追求すべきであり、食品の安全にかかわるデータを公開させる強制力を付与すべき」との指摘がありました。国内の食品表示法の動向が気にかかる内容でした。

# おじゃましました ~奈良教育大生協の巻~

## 自転車事故防止を願って

全国の大学生協で自転車事故防止の啓発DVDを作成するにあたり、奈良教育大生協の学生委員が企画や撮影にかかわったとお聞きし、11月11日の午後、奈良教育大生協食堂で開催されている学生委員会に行ってきました。

### 自転車は凶器にもなってしまう!

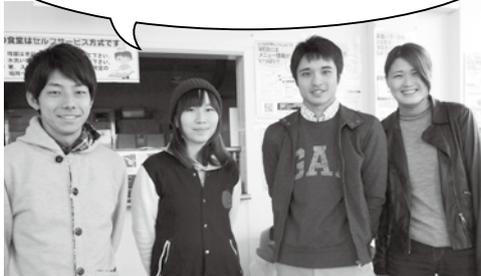
対人事故は賠償金額も高額になるうえ、相手にけがを負わせてしまうのは、大変悲しいことです。そのようなことから、全国の大学生協共済連では、従来から「自転車事故防止パンフレット」を作成し啓発していましたが、学生の意見を聞いた新たな啓発DVDを作成することになったそうです。

奈良教育大生協学生委員2回生の今林拓夢さんが、企画運営にも関わることに手を挙げ、シナリオ書きや撮影にも関わることになったそうです。



DVD撮影の様子。DVDは春にはお披露目です。

組合員に事故防止の啓発をする活動を通じて、自分たちの自転車の乗り方を振り返ることになりました。



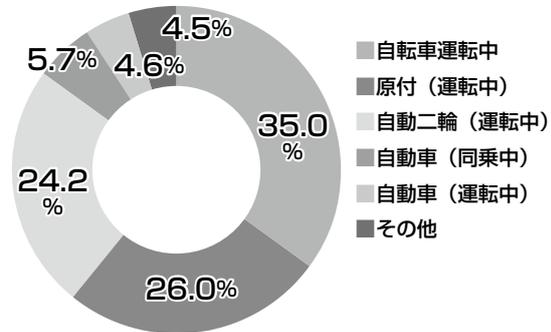
撮影にかかわった学生委員の「俳優」さんたち  
左から伊藤壘さん、太田あゆみさん、今林拓夢さん、武田優理さん。

### 交通事故の3割は自転車の事故!



大学生協の学生総合共済のホームページによると、ここ数年国内全体では自転車事故は減少傾向にあるものの、件数では交通事故全体の2割弱を占めています。(2014.警察庁)。学生総合共済では入院保障の共済金支払対象となった交通事故の3割以上が自転車事故。自転車運転中の賠償事故は、昨年度から186件増加しました。これは昨年度の増加件数(166件)を上回っています。いずれの学年においても事故件数は増加しているそうです。(2014年4月~2015年3月の学生賠償責任保険支払実績データより)(大学生協の学生総合共済ホームページより)

入院保障共済金支払件数に占める自転車事故の割合



3つの大学生協(奈良教育大生協・奈良女子大生協・奈良県立大生協)の学生委員で大学周辺のヒヤリマップを作りました。奈良県警察のヒヤリ地図コンクールに応募し、12月10日の審査会において一般の部で最優秀賞を受賞しました。



学生委員会[共済局、店舗購買局、広報局、IPE局(国際・平和・環境)]に分かれて会議

環境のページ **COP21に向けて ~気候をまもる、パリへの行進~**  
**アースパレード2015京都に参加しました**

11月29日(日)12時から京都・円山公園音楽堂にて、\*1Climate Action Now! 実行委員会主催の「アースパレード2015京都」が開催されました。テーマカラーは「ブルー」。奈良県生協連は、ならこーぷ、奈良県温暖化防止活動推進センター、NPO法人サークルおてんとさんと共に賛同団体として、青い服や青いバンダナやカバンなどを身に着け、パレードに参加しました。



「Climate Action Now!」と意思表示

ダンスパフォーマンスや音楽コンサートではじまり、ツバル出身の方や企業やNGO、エコリーグなどの大学生たちや、小学生と中学生の姉弟も「自然が一番大事だ」とスピーチ。その後、メッセージチラシをもってフォトアクション。市民が「Climate Action Now!」と意思表示しました。

その後、観光客でにぎわう市内を京都市役所前まで「気候をまもろう!再エネ増やそう!」と行進。市民、NGO、生協など、集会に500名、パレードに600名が参加し、沿道の観光客にPRしました。



京都市内をパレード

**\*1 Climate Action Now! 実行委員会**

国内外の市民と連携し、\*2COP21パリ合意の成功をめざすことを呼びかけるために結成されました。11月30日からフランスのパリで開催されるCOP21を前に、世界中で数千万人が地球環境を守るため、会議の成功を願い、声を上げる日として取り组まれました。日本では気候ネットワークなど環境NGOが中心になって東京と京都で実施されました。

(\*2COP21: 気候変動枠組条約第21回締約国会議。12月12日「パリ協定」が採択され、世界の温暖化対策はすべての国と地域が取り組むことになる歴史的な転換点を迎えました。)

**つくばね発電所建設現場見学会を開催**

10月2日、奈良県生協連主催で、昨年に引き続き、奈良県内の再生可能エネルギー発電施設の見学を実施し会員生協役職員18名が参加しました。

東吉野村つくばね小水力発電所建設現場と現地交流会および大淀町にあるクリーンエナジー奈良(株)の吉野発電所(木質バイオマス)を見学させていただきました。規模こそ異なりますが、奈良県内で再生可能エネルギーを生みだそうと動き始めています。



つくばね(小水力)発電所建設現場



木質バイオマス発電所見学の様子

**ならエネルギーフォーラムに参加**

10月22日、奈良県生協連が支援する「(一社)地域未来エネルギー奈良」主催の「ならエネルギーフォーラム(第1回)」がやまと会議室(奈良市)で開催されました。県エネルギー政策課はじめ奈良市などの自治体担当者10名、ストップ温暖化推進員やNPO、研究者、ならこーぷ、奈良県生協連、学生、企業など合計39名が出席し、他府県の再エネによる行政との協働事例や再エネ条例などについての情報を共有しました。奈良県生協連からは、つくばね発電所および木質バイオマス発電所見学会を実施した報告を行いました。



ならエネルギーフォーラム会場の様子

# 奥大和ゆうゆう祭で 「健康チャレンジ」

10月24日(土)・25日(日) 宇陀市総合体育館周辺で南部東部活性化イベント「奥大和ゆうゆう祭」が開催されました。

体育館入口ブースで、24日は奈良県生協連が「つくばね小水力発電所建設地と木質バイオマス発電所見学」などの紹介、25日は奈良県医療福祉生協が「血圧・体脂肪・骨密度の健康チェックを行いました」。両日を通じて、昨年から進めている「健康チャレンジ」のコーナーを設け、「バランスの良い食事を心がける」「毎日歯磨きをする」など8つのコースから自分に合ったコースを選択して取り組みを宣言をしていただきました。健康への関心が高く2日間で200名の参加者がありました。奈良県医療福祉生協がめざす健康づくりの実践の取り組みとして、今後も奈良県生協連全体で「健康チャレンジ」を行うことで、一人一人が健康づくり運動に取り組む運動として広げていくアピールとなりました。



## 消費者支援機構関西(KC's)が設立10周年

### 12月5日(土) 記念シンポジウムを開催

近畿圏の生協なども設立に参加した適格消費者団体消費者支援機構関西(KC's)が2015年12月で設立10周年を迎えました。12月5日新大阪江坂東急REIホテルにて記念シンポジウムが開催され、110名の参加者が集い祝いました。



榎彰徳理事長はあいさつの中で多くの支援と協力への謝辞を述べるとともに、消費者団体訴権制度に大きく貢献できた10年の活動をふりかえりました。書面でのやりとりや協議した事業者は80件を超え、差し止め訴訟8件はいずれも勝訴または和解しました。

記念シンポジウムでは「消費者被害拡大防止と回復：海外の制度と団体」をテーマに、カライスコス・アントニオス関西大学准教授および高橋義明筑波大学准教授の基調報告と、そのあとパネルディスカッションがあり、日本の消費者団体と制度のありかたやKC'sの未来について討論が行われました。

## 「給付型奨学金制度の導入・拡充と 教育費負担の軽減を求める」

署名活動に  
協力します



現在大学の学費の高騰や家計収入の減少により、大学生の二人に一人が奨学金制度(ほとんどが給付型でなく貸与型)を利用しており、多くの若者が長期間、多額の返済義務を負って社会に出て行きます。卒業後の雇用状況により「返したくても返せない人」も増加し、滞納者は33万人を超え社会問題化しています。こうした状況から奨学金制度の改善を求める運動を労働者福祉中央協議会が取り組まれており、奈良県労働者福祉協議会から奈良県生協連にも協力の依頼があり、理事会で会員生協にも協力を呼び掛けて取り組んでいます。

2015年12月4日

# 3.11を忘れない。

## みやぎ生協から被災地・宮城のいまをお伝えします

### ～地域再生に向けて～

## 漁業者の経営安定のため販売強化に取り組む

「復興の歩みは一律ではなく、浜（地域）や品目ごとに異なる」宮城県漁業協同組合の丹野一雄会長と阿部誠理事は、現在の状況をそう話します。

魚市場の再建などで全体的に活気を取り戻しつつある一方、漁港工事や住宅再建の遅れが漁業者の志気に影を落としていること、ワカメや銀ザケの水揚げはほぼ震災前の水準に戻ったが、カキ・ノリ・ホタテは資金などの問題で回復が懸念されていること、生産者の減少で人手不足に直面している漁場もあるなど、震災から4年8ヶ月を経たいまも難題が山積しています。

そうしたなかでも養殖施設や共同漁船などの整備は着実に進み、ほぼ完ぺきな状態で完了。事業継続に意欲を燃やす生産者の背中を押しました。

南三陸町志津川の生産者は震災後、密植を避けたカキ養殖に挑戦。養殖版“海のエコラベル”として知られる「ASC（水産養殖管理協議会）」の国際認証取得を目指しています。

奮闘する生産者を支援するため、宮城県漁協はこれまで以上に販売強化に取り組んでいます。「従来の共同販売の仕組みを活かしながらも、宮城の“さかな”を積極的にPRし、外国も視野に販路を求めている」と阿部さん。

ネットを活用した電子商取引「おらほのカキ市場」、東京での冬季限定カキ小屋、香港やシンガポールでの三陸フェアなどPR・販路開拓の取り組みは多岐にわたります。

海外との競合など今後も困難は予測されますが、丹野会長は「個々の経営安定が一番。そうすれば自ずと漁業に人は定着する」と強い信念を見せます。

水産業の復興は地域再生の要です。歯を食いしばって震災を乗り越えようとする漁業者と漁協の二人三脚はこれからも続きます。

情報提供／みやぎ生協



「貝毒やノロウイルス、放射性物質の徹底した検査を行ない、安心・安全なものだけを提供しています」丹野一雄会長（右）と阿部誠理事



南三陸町志津川戸倉では11月後半からカキの出荷が始まった。「浜に活気が戻ってきた」と話す、津の宮カキ共同処理場代表の佐々木幸一さん

## 平成27年度の奈良県防災プラットフォーム連絡会が開催されました

11月18日に奈良県社会福祉総合センターにて、奈良県防災プラットフォーム連絡会が開催され、奈良県（防災統括室、協働推進課、安全・安心まちづくり推進課）、市町村社協事務局長会、奈良NPOセンター、民生児童委員連合会、奈良県労働者福祉協議会、日赤奈良県支部、奈良県社協、ならコープ、奈良県生協連が参加しました。奈良県防災プラットフォーム連絡会は、平成17年に「災害発生時、迅速かつ効果的な救援活動を行うため、被災地内外の各団体・機関が、お互いの特性や機能を活かしながら、総合的・一体的な復興支援に取り組む協働の場であるとともに、平時から防災に向けた普及・啓発をめざし、奈良県域でのネットワークを構築する」ことを目的に、発足しました。

今年度は、主に「9月関東・東北豪雨災害支援活動」「各団体の防災・災害支援活動」について、報告交流を行いました。奈良県生協連からも、この間の「福島の子ども保養プロジェクト」「奥大和ゆうゆう祭」「福島の現状を学ぶ研修会」「みやぎ生協から被災地・宮城の今を伝えるホームページの掲載」などについて報告しました。

# 県連日誌

## 10月

- 1日 関西地連運営委員会
- 1日 県連活動推進会議
- 2日 つくばね発電所・馬佐木質バイオマス発電所見学会
- 3日 温暖化防止ネットワーク関西主催シンポジウム
- 7日 奈良県生活支援サービス・活動連絡会企画会議
- 7日 奈良県農政推進会議
- 9日 近畿地区生協府県連協議会  
ならエネルギーフォーラム
- 22日 (一社：地域未来エネルギー奈良主催)
- 23日 奈良県生協連上期監事監査
- 24日～  
25日 奥大和ゆうゆう祭
- 27日 関西地連大規模災害対策協議会

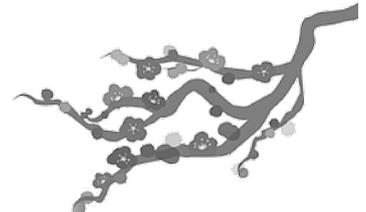


## 11月

- 3日 「介護保険改正とこれからの地域づくりを考える全国フォーラム」(神戸)
- 6日 大阪ガスと関西消費者団体懇談会との懇談会  
第26回奈良県生協大会
- 7日 ピースアクション in なら2015
- 8日 自然エネルギー学校・なら2015 (第1回・第2回)
- 9日 J Aならけんととの懇談
- 11日 2015年度食の安全懇談会
- 12日 第2回生協・行政協議会
- 12日 奈良県生協連第4回理事会
- 17日 関西電力と関西消費者団体懇談会との懇談
- 18日 奈良県防災プラットホーム連絡会
- 23日 奈良県医療福祉生協 “いきいき健康まつり”
- 26日 奈良県消費生活審議会
- 26日～  
27日 宮崎県生協連研修
- 29日 アースパレード2015 京都

## 12月

- 3日 関西地連運営委員会
- 3日 県連活動推進会議
- 5日 KC's 10周年記念シンポジウム
- 5日 自然エネルギー学校・なら2015 (第3回)
- 15日 地域協働型再エネ事業の実現を目指す研究会「地域小水力」
- 25日 近畿労働金庫と近畿地区生協府県連合同会議



## 編集後記

年内最終の不燃ごみの日に、いらないカバンを捨てた。夕方になって気がついた、あの中にパソコンのUSBスティックが！さよなら、わたしの苦心の活動記録…ま、それもいいか。新しい年にはまた新しい「ひと」と「こと」にどんどん出会えるのだから！ (由)

県連の広報誌が完成しました。今後も、行政や、会員生協、諸団体の皆さまと協力して、「安心して暮らせる地域社会づくりにお役立ちできるような県連活動」が大切だとあらためて感じました。 (和)

昨年忙しい日々でした。しかし、しなければならぬことがあるということは幸せなこと。家族があつてのこと。「心を亡ぼさないように」動くよう心がけねば。 (順)

あわただしい一年が過ぎ、新しい年がやってきました。今年も申年「申(サル)」が「去る」という意味を表し、悪い事が去りいいことや幸せがくる年といわれているそうです。良いことが一杯ある一年になればと願っています。 (佳)